

## 再認と再生の組み合わせから発展した英語コミュニケーション活動 ～生産的言語活動を導くジョイント・トレーニング～

太田 一郎  
(鎌倉女子大学)

### < Abstract >

This study proposes that we should adopt the joint-training which will lead the students to productive language activities by evolving the memory mechanism, the combination of 'Recognition' and 'Recall' in Cognitive Psychology.

In modern English education, developing communicative skill among students is very important. The assembly of leaders and some advisers from the educational sector had a meeting held by the Ministry of Education, Culture, Sports, Science and Technology. They showed a high expectation about the effective English teaching method toward the Olympic Games in Tokyo in 2020, or by 2050, when the younger generations will work as the core of the society. But even if schools and universities shift the teaching methods from grammatical training and translation training to presentation, discussion and debate, they won't work well without basic knowledge, consciousness of the public problems, and enough experiences. And it's hard to say that we can achieve the goal we have. The Joint-Training will effectively connect input-training and output-training and develop English communication skills. This language activity will link with the students' challenging spirit and attitude and make it possible to give them linguistic power for the next training stage; speech, presentation, discussion and debate.

### 1. はじめに

本研究では、認知心理学の中で記憶のメカニズムとして考えられている「再認」と「再生」を組み合わせた言語活動を行いながら、それを生産的言語活動へと導くジョイント・トレーニングの提唱をしたい。

現代の英語教育においては、自分自身の意見や考えを主体的に述べるアウトプット力養成が重視されている。2020年の東京五輪招致、さらには、2050年度以降に現在の若者たちが社会の中核となって活躍する時代に向けて、文部科学省主催有識者会議の中の「英語教育の在り方」に関する意見交換でもその期待度は高い。しかし、やみくもに学生たちの指導を、文法解説や訳読指導からプレゼンテーション、ディスカッション、ディベートなどの活動にシフトしても、学生たちが十分な問題意識と基礎知識を蓄え、それぞれのテーマにおける自らの意見や考えを主張する経験を数多く積んでいなければその達成は難しい。蓄積型言語活動（インプットトレーニング）から生産的言語活動（アウトプットトレーニング）へと橋渡しするジョイント・トレーニングが必要である。3 + 2 = の答えには5という答えしかないが、答えが5になる算式は無限大にありその過程も様々である。この多様性を言語トレ

ーニングにも応用できないだろうか。例えば、対話文中で、The cost of raising children is getting more expensive! (子育てに関わる費用は益々かさみます。) のような英語表現を学んだ後、その表現が対話の中で機能を果たすような短い対話文を、学生が考え発表する。自分以外の多くの学生が考えたシチュエーション (場面設定) と英語表現がそこに加わり、自分自身の言語活動とリンクして、意欲的な学習姿勢をさらに引き出すことが可能になるのではないか。その積極的姿勢が、スピーチ、プレゼンテーション、ディスカッション、ディベートなどのアウトプットトレーニングにおいて学生の更なる力を引き出すことが期待できる。

## 2. 認知心理学の記憶のメカニズム「再認」(Recognition) と「再生」(Recall)

認知心理学の中の記憶のメカニズムには、「再認」(Recognition) と「再生」(Recall) がある。再認とは自分の行った経験や記憶した内容を確認することで、再生とはそれらを全て何も見ずに思い出すことである。どちらも学習し、記憶したことを思い出す作業だが2つには大きな違いがある。たとえば、「あなたは昨日の午後5時にサッカーをしていましたか？」という問いに答えるのが再認で、「あなたは昨日の午後5時に何をしていましたか？」という問いに答えるのが再生である。再認は自分の経験や記憶を与えられた条件にあてはまるかどうかを確認する作業で、比較的簡単に答えることができる。それに対して再生は、何も手掛かりを与えられずにすべてを思い出すことが求められる。再認に比較すると再生は難しい作業といえる。また、再認の力は学習年齢や性別にさほど影響を受けないが、再生の力は性別によって影響は受けにくいものの、年齢の進行とともに低下するというデータがある。(Schonfield & Robertson, 1966) 言語学習においては、記憶メカニズムの活発な若い時期に、再認と再生を組み合わせさせた言語習得トレーニングを積むことが大切であろう。しかし、それだけではインプットしたものを呼び起こし、定着させる学習に終始してしまう。今までの学習を通して得た知識や経験をもとに主体的な考えや意見を述べるアウトプットトレーニングへとスムーズに移行するため、段階的に生産的言語活動へと導いていくことが可能なジョイント・トレーニングの必要性が考えられる。

### 2.1 英語コミュニケーションにおける再認・再生トレーニングとその出題例

ある学生が Low Birthrate (出生率の低下) という英文パッセージから The cost of raising children is getting more expensive. という英語表現を学習するとする。さて、その表現の使い方を理解しているかを確認する再認のトレーニング (出題例) が以下の問題である。

次の対話文のカッコに最も適切な英語表現を1つ選び、記号で答えなさい。

A: Now Japan is faced with a low birthrate.

B: ( ) is getting more expensive. For example, food and clothes, tuition fees, medical expenses, and so on.

A: You're right. Young couples can't easily have children.

B: The government should provide financial support immediately.

A: That's exactly what I think.

ア. The cost of saving children

イ. The cost of playing with children

ウ. The cost of raising children

エ. The cost of spoiling children

正解) ウ

この問題は、学生が4つの選択肢を1つずつ確認しながら対話文が成立するかどうかを英語表現に照らし合わせ確かめるという作業である。正解（ウ）以外の選択肢の英文が理解できなくても解答は可能である。次に同じ対話文を使った再生の出題例を見てみたい。

次の対話文のカッコに最も適切な英語表現を入れ、対話文を完成させなさい。

A: Now Japan is faced with a low birthrate.

B: ( ) is getting more expensive. For example, food and clothes, tuition fees, medical expenses, and so on.

A: You're right. Young couples can't easily have children.

B: The government should provide financial support immediately.

A: That's exactly what I think.

正解) The cost of raising children / The cost of living など

この問題は、学生が対話文を理解し、日本の低い出生率に対して考えられる原因を今までで学習した英語表現を使って答える問題である。うろ覚えでは解答できない。

## 2.2 英語コミュニケーションにおける言語的生産活動へ導くトレーニングとその出題例

2.1 で示した再認と再生の言語活動トレーニングを生産的言語活動へと発展させるトレーニング（出題例）をここで考えたい。

次の対話文のカッコに最も適切な英文を入れ、ペアになり対話文を口頭発表しなさい。

A: ( ① )

B: *The cost of raising children is getting more expensive.* For example, food and clothes, tuition fees, medical expenses, and so on.

A: You're right. Young couples can't easily have children.

B: ( ② )

A: That's exactly what I think.

この問題は「子育て費用はいろいろな面でお費がかさむ」という相手の反応から会話の冒頭でどのような問題提起をしたのか（①）、また、簡単に子どもを持たないと考える若い世代を支援するためにはどうしたらいいか（②）、の2点をいままでの学習内容、経験を踏まえ生産的に学生が表現する問題である。この問題には決まった解答がない。イタリアックで示した表現が学習のキーセンテンスであることを認識させ、参加した学生一人ひとりの主体的な考えを引き出すことを目的にしている。また、自分が示した英文表現の適性と整合性を他の学生が評価し、話し合うことで、「子育てに必要なお費の高さと出生率の低下」についての密接な繋がりを考えさせ、生産的な言語活動をさらに深める手助けにもなる。再認と再生を応用した言語記憶の定着訓練から、学習や経験（知識）を活かした生産的言語活動へと活性化させるトレーニングである。

対象学生：3・4学年 英語プレゼンテーション実践ゼミ生 8名

言語レベル：平均取得 TOEIC スコア 460

<学生が出した解答例とその整合性に関する他学生の評価の具体例>

1. ( ① ) の解答と評価

• We can't spend enough money for children. Everything is expensive.

子どもに費やすお金が十分でないというのは抽象的なので具体性をもたせるほうがよい。出費がかさみ、どういうことが子どもにしてあげられないのか？何もかも高いというのは現在の日本の経済社会に合致しないと思う。(Negative)

• Many people in Japan is now living on low salary.

「日本人の多くが」というくくりの中で低賃金というのはおかしい。それぞれの努力によって収入の伸びが将来期待できるから家族を養えるのではないか。低賃金自体を子育てが難しいという視点へ持っていくのは会話の流れとして違和感がある。(Negative)

• Now, Japan is in deep economic recession.

日本は長いデフレをようやく脱却しつつあり、経済動向も安定している。経済不況は少し時代が古い表現ではないか？(Negative)

• Recently young people tend to have a small family.

子ども1～2人を望む若者たちが多くは周知の事実でよいと思う。経済的に許せばもっと多い家族構成を望む若者もいるが現実の様々な問題を考えると4人家族程度が妥当と考える人が多いと思う。(Affirmative)

• We young people are not rich enough to bring up children.

子どもを育てられないほど日本社会は困窮していない。(Negative)

• The price of education is expensive.

高い教育費の問題は子育て問題の一部であり、それだけで会話が進行するのは不自然ではないか。学校選びにおいて私立志向がそうさせるのであって公立学校の整備や質の向上によって解決されることもあるのではないか。(Negative)

• People are suffering from a low family budget.

低所得に苦しむ家族と貧困による教育差別が社会問題化しているので、視点はいいと思う。しかし、これは生活困窮という社会問題で、子育てに必要な費用が上がっていることが直接の原因でないように思える。(Neutral)

• I want to have three children, but there are many problems.

一見簡単な個人的な表現だが、「3人子どもが欲しいがいろいろと問題がある」といつてその具体的要因が次に示されているのでわかりやすい。(Affirmative)

・ **Raising children should have the first priority in the society.**

子育てが社会（活動）のなかで最も優先されるべきだというのは一つの価値観であって子どもを育てる費用の問題につなげるのは不自然さがある。(Negative)

・ **Now Japan is faced with a low birthrate.**

日本の出生率の低下は長い間ニュースになっていてこの表現は授業でも学んだ。都会の核家族化が進み、女性の社会進出などもあり日本の社会構造が変化する中、子育て支援に関する話題が後に続くのは自然だと思う。しかし、子育てに関する費用問題以外に待機児童の解消問題や女性の出産・育児休暇後の仕事復帰の困難さも会話の中に含まれるのが自然ではないか。(Neutral)

2. ( ② ) の解答とその整合性に関する他学生の評価の具体例

・ **So many young people choose 'DINKS', which means 'Double Income and No Kids.'**

子どもを持たないという選択は大変勇気がいることでもあり、同時に自分たちの生活の充実を第1に願う現代人らしい決断だと思うが、多くの人がある選択をできるのなら子育て費用の問題は解決しているはずである。(Negative)

・ **So many young people save their money for the future.**

ぜいたくな暮らしに興味を持つことなく、将来に向けての貯金を第1に考え、生活費から将来の資金を蓄えるという発想は、私たち若者の多くが考えることでわかりやすい。出産後の費用を *maternity expenses* ということも学んだ。(Affirmative)

・ **People should cut down on electricity and heating expenses.**

光熱費を節約して生活費を切り詰めることはよくあるが、私たちの現代の生活で大きなウエイトを示す通信費（スマートホン等通話料）の節約も考えに入れるべきではないか。(Neutral)

・ **Cooperation among the different generations is very important. For example, grandparents will support their grandchildren's education, while parents will support grandparent's health management and movement.**

異なる世代間同士が協力して子育てをすることは、子育て環境の悪化に対抗する効果的な手段でよいと思う。教育費の支援を祖父母が行い、その一方で祖父母の健康管理や移動の援助などの面倒を親世代がみることは現代社会にも多くみられる。(Affirmative)

・ **The government should provide the financial support immediately.**

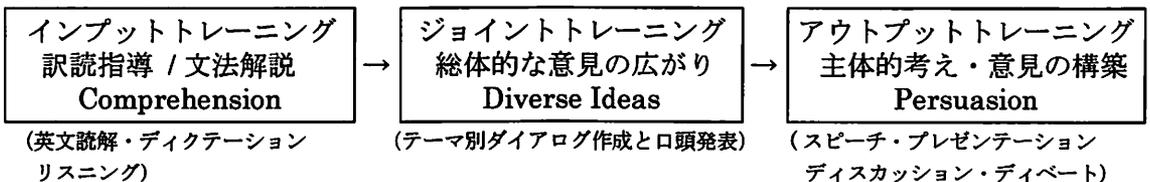
これはテキストで見た表現だが、子育て支援に関して政府が公的支援をおこなうことは社会福祉の充実という点で欠かせない。国民の自助努力も大切だが子育てがしやすい社会福祉の制度づくりも大切なので説得力がある。(Affirmative)

それぞれ学生が①、②において応答した英文は、実際の場面では、冠詞や前置詞の欠落や誤用、不適切な動詞の使い方や時制、不適当なコロケーション表現があり、修正を加えたが、この指導においては、学生一人ひとりが生産的に主体的な意見を述べる効果を重視し、語法や文法の誤りは問わないこととしたい。また、自分の主体的意見に対して他の学生の多様な評価を同時に聞くことによって、学生にとってさらなる発展的な意見構築へと導く素地ができることをこの指導のねらいとした。

### 3. 言語習得におけるインプットとアウトプットの役割とその連結作業の重要性

「インプット仮説」(Krashen 1985)では、理解可能なインプットが十分に与えられれば、それだけで言語習得は十分可能であり、「話す力・書く力」は適切なインプットによって自然に蓄えられ、主体的に意見を述べるアウトプットトレーニング、意識的学習、誤用訂正指導などは限定的な役割を果たすに過ぎないとしている。言い換えれば、「読む」「聞く」の2つの理解行動が言語習得の重要な要素であり、他者が伝えるメッセージを理解することが言語習得そのものであると言っている。(横山紀子 2004) 一方で「アウトプット仮説」(Swain 1995)では、アウトプットはインプットに比べて学習者により多くの知的努力を要求し、深い言語処理をさせる。「読む」「聞く」の理解行動ではその理解度の不十分さが見えないように進行させることが可能だが、「話す」「書く」の生産的言語活動では自らの中間言語を使ってその限界を認識することができる。「伝えたいこと」と自らの言語能力で「伝えられること」のギャップを知り、相手に自分のメッセージをわかってもらおうと説得力を持たせようとする努力がさらなる言語能力向上を導くと言っている。(横山紀子 2004) これら2つの仮説の方向性から、インプットトレーニングとアウトプットトレーニングいずれか1つだけでは言語習得は困難で、そのバランスのとれた効率的な学習が、言語習得のための4技能(読む・聞く・話す・書く)向上に欠かせないことが見えてくる。しかし、ここで大切なことは、学習者がインプットトレーニングからアウトプットトレーニングに移行するにあたり、その橋渡しとなるジョイント・トレーニングが必要になることである。

(英語学習トレーニングのイメージ図)



例えば、2.1で示したように日本の出生率の低下や子育ての問題についての英文メッセージを読み、その内容を理解して基礎的な英文表現を再認・再生などの過程を経て蓄えることがインプットトレーニングである。そして前述の2.2のトレーニング(出題例)で示したように、それをテーマにした短いダイアログを今まで学習した英文表現を使って成立させ、意見交換をする中で多様な評価と英語表現を学ぶのがジョイント・トレーニングである。しかし、ここでは正解というものがない。2.2で示した学生たちの多様な評価の中には、Affirmative(肯定的)、Negative(否定的)、Neutral(中立的)のそれぞれの方向性があり、発表した学生は自分自身の英文表現がどの程度周囲に受け入れられているのか、そして自分自身の考え・意見の総体的な位置はどこにあるのかなども

把握することができる。また、他の学生が用いる英語表現や意見も学習することができ、さらに理解が深まる。

限定的なインプットからは限定的なアウトプットしか出てこないが、このように、周辺知識や関連分野の知識を吸収しつつ、同時に他者の英語表現や意見を学習することで視野を広げ、英語表現力を身につけることができる。1つのテーマについて包括的に理解し、アウトプット(発信)するための主体的な意見構築への準備につなげることが可能になる。

ジョイント・トレーニングを経た学生に対し、以下の問いかけをし、最終的に自分自身の意見構築と、主体的な表現をさせることによってアウトプットトレーニングをおこなった。それぞれの代表学生の回答例は、ジョイント・トレーニング前後の生産的な意見構築に見られる変化とその効果を示している。

Japan is faced with a low birthrate. What do you think about this social problem?

(学生A)

<Before Joint-Training>

I don't know. I'm not so interested in this problem. What will happen when we have a low birthrate?

<After Joint-Training>

Now I'm serious about this problem. I understand it will cause lack of labor power and economic crisis in the future. We must change this situation. Otherwise, our pension system may collapse.

(学生B)

<Before Joint-Training>

Well, it's a difficult problem. I'm sure younger generation should have more children, but no one can say how many children we should have in the future.

<After Joint-Training>

I just kept a distance from this problem before. But I think to share this problem together and try to solve it is very important. Japanese women need many kinds of support, such as financial support, enough public nursery stations, guarantee of job position, and so on.

ジョイント・トレーニング前は、「わからない」「興味がない」「私が意見できる立場ではない」と言う表現が先に立ち、自分自身に関わる姿勢が消極的な学生が目立ったが、トレーニング後は、周辺知識を理解し、自分を含めた包括的な意見を相手に伝えようとする積極的なコミュニケーション姿勢へと変化している。

#### 4. 考察

第二言語習得において、多くの先行研究ではインプットトレーニングが意味の習得において有利とする立場が一般的だが、現在、日本が求められている英語教育の成果は語彙や意味の習得による内容理解力ではなく、その習得した英語表現を他者に向けてどう使うか

という実践的な言語運用力である。しかし、何よりもまず習得した英語表現を記憶にとどめることが先決であり、その意味では認知心理学に基づく再認や再生訓練によって語彙や表現のインプットを定着させることの重要性は否定できない。それらの基盤がしっかりしていて Swain(1995) の言うようなアウトプット効果を望めると思われる。

次に、主体的な考えや意見を述べるためのアウトプットトレーニングだが、プレゼンテーション、ディスカッション、ディベートなどには対峙する相手がいる、相手と自分がお互いの意見を主張する中、それぞれの正当性を言語表現で示し、相手を説得し自分の意見を支持してもらうことが目的である。その過程の中で互いに不足する点を補い、より良いものを構築しようとする立場がプレゼンテーションやディスカッションであり、相手の意見を様々な検証と反駁で一掃し論破して自分の意見を採用させようとするものがディベートである。主体的な考えや意見を表現するトレーニングの場としてはどちらも適しているが、発表者に相当なストレスをあたえてしまうのも事実である。ジョイント・トレーニングによって、事前に様々な視点から考えられる英語表現を、短い対話文の中で述べ、相手と対峙することなく自由な発想で自己の意見を述べ他者の多様な評価にふれる機会を得ることは大変有意義な言語活動であると言える。読書感想文では、本の中の登場人物や物語について個人的にどう思ったか、どう考えたかを述べればよく、それを聞いている人々が理解して同意するかどうかは問題にならない。それに対し英語コミュニケーションの中のアウトプットは、対象になる内容が実社会の中で起きている事柄や事件についてであり、相手の理解と同意を得ながら伝えようとする努力とメッセージの正当性と整合性が必要になる。「みなさんがどのようにお考えになっても構いません。とにかく私はこう思います。」という姿勢では、流暢な英語でメッセージを伝えることができてもコミュニケーション力が身につけているとは言い難い。

それらの観点から、ジョイント・トレーニングの場においては、英語学習の音声に関わる矯正指導と英文法に関わる修正指導から一線を画し、1つの主題やテーマにおいて、

- ① わかりやすい表現で意見を述べ、多様な評価を受け入れること (clear message and diverse ideas)
- ② 学習や経験に沿った考えや意見を述べ、一貫性をもたせること (consistent theory) の2点を重視しながらも、その内容の真偽を問うことのない指導が望まれる。  
そして、その後のアウトプットトレーニング (スピーチ、プレゼンテーション、ディスカッション、ディベート) の場において
- ③ 多様な意見を多角的に捉え包括的であること (comprehensive ideas and thoughts)
- ④ データや数値による根拠があり説得力をもたせること (persuasive speech) の2点をさらに加え、具体的に自己の意見構築を英語で表現し、そのメッセージを伝える指導が望まれると考える。

**参考文献**

- ・文部科学省 英語教育の在り方に関する有識者会議資料
- ・ Shinji Kitagami Nagoya University. (2011). Issues and propositions in identity authentication: from viewpoint of cognitive psychology
- ・ Schonfield, D & Robertson, B.A (1966). Memory storage and aging, Canadian Journal of Psychology
- ・ 筒井雄二 学習院大学 (1996) 「加齢に伴う記憶機能の変化」
- ・ 横山紀子 (2004) 「言語習得におけるインプットとアウトプットの果たす役割」 日本語国際センター紀要第 14 号
- ・ Krashen, S. (1985). The Input Hypothesis: Issues and Implications. Torrance, CA: Laredo Publishing Company, Inc.
- ・ Swain, M. (1995). Three functions of output in second language learning. In G. Cook & Seidlhofer, B.(Eds.), Principle and Practice in Applied Linguistics Cambridge: Cambridge University Press
- ・ 染谷泰正 関西大学 (2011) 「英語教育におけるプロダクション訓練の方法論とその理論」 関西大学外国語学部紀要第 5 号
- ・ 伊藤治己 (2008) アウトプット重視の英語授業 (教育出版)
- ・ 中本敬子・李在鎬 (2011) 認知言語学研究の方法 内省・コーパス・実験 (ひつじ書房)

**(参考資料)**

○本研究の中の学生が学習に使用した英文パッセージを以下に示す。

**Low Birthrate**

○ Read the essay below and answer the following questions.

These days Japan has a low birthrate. The number of kids being born keeps going down each year. This means that there are now more old people than young people in Japan. This aging society is giving rise to a lot of social problems—who is going to pay for healthcare and pensions, for example. Also, many people worry that the low birthrate and the shortage of young people will mean that Japan's language, values, culture, and way of life will eventually be forgotten.

Of course, a low birthrate is not all bad. It can also be a good thing. For one thing, young people who choose not to have children usually have a higher quality of life. They are able to spend their free time and income on themselves instead of on children. They can live as they please and do what they want free from any real responsibility.

Smaller families—a mother, father, and one child—can also enjoy a higher standard of living. Couples with only one child can devote themselves to that child instead of dividing their time among two, three, or four children. Parents don't have to miss one child's soccer game, say, in order to attend another's piano recital or school festival. They can give their only child their best. They don't have to share their love. Financially, smaller families are better off, too. Raising one child and providing him or her with food, clothing, schools, recreation, birthday and New Year's gifts, and so on is expensive enough; raising two or three can be a huge burden.

Despite these benefits of small families, I like the idea of big families. I had two brothers, and I'm really glad I did. We always had each other to play with, so we were never lonely. We always helped each other out when there were problems. It was like having two best friends living in the house with me. Sure, we had arguments from time to time, and I know that it was hard on our parents—we could never afford to travel anywhere, for example—but I wouldn't trade my big family upbringing for anything.